

平成 31 年度（令和元年）第 2 回
大阪府立豊中高等学校 学校運営協議会 議事録

日時 令和元年 10 月 18 日（火）17 時 30 分～19 時 00 分

出席者 協議会委員 山崎 彰・西澤 信善・宮坂 政宏・尾崎 理人
岩元 宏司・佐谷 明

校長 平野 裕一

事務局 武内 由佳・松本 恵美子・上林 卓也・安福 一貴

次第

1. 校長挨拶
2. 会長挨拶
3. 協議・報告

(1) 学校経営計画の進捗について

校長より

①進路を切り開く学力の育成

令和 2 年度に向けた進路指導について

- ・・・進路希望調査結果より、浪人をした際には、入試改革と重なってしまうため、「入りやすい」大学を目指すのではという危惧があったが、大きな変動はなかったと考えている。
- ・・・英語資格試験については、来年度から、民間資格試験を年 2 回受験し、例えば大阪大学を受験するには A2 レベル以上をとらないといけない。GTEC や英検を受験する生徒が多いであろうと予想している。その申し込みが既に始まっており、英検が先に申し込み開始（3,000 円の予約金）、GTEC は会場の確保に時間がかかっている（申し込みは始まっていない）豊高生は A2 レベルには十分到達できると考えている。

②国際舞台で活躍する人材育成

S S H 3 期目に向けて

- ・・・“みらい地域還元型” 科学する人づくりプロジェクトの開発
「科学の街とよなか」、小学校、中学校、大阪大学とも連携した人材育成
自発性、創発性が発揮できるプログラムの開発
ネットを含めて海外との連携したプログラムの開発
本校がピラミッド型の中心ではなく、コンソーシアムとして中核を担い、それぞれが自発的に活動していく育成プロジェクトを中心に進めている。

WWL について（S G H の後継事業）

- ・・・北野高校を拠点校として、G L H S の 1 0 校が連携校として協力する（文理を超えた取り組み）。各校 2 名、計 2 0 名でのアドバンスト・ラーニング（A

L) クラスとして1年生の後半から2年生に対して実施し、文系理系に関係なく研究活動をおこなう。

2年生夏には、ドイツへの研修旅行(40~50万円程度)参加者へは、校内説明会・全体説明会を実施予定している。

③教員の「働き方」に向けた取り組み

時間外労働時間について

・・・ストレスチェックより

勤務時間は長いが、自分のペースで仕事ができる → ストレス度は低い。

留守番電話、ノークラブデーなどの取り組みをおこなっている。

1人当たりの時間外勤務時間において、昨年度のどの月よりも減少している。

上半期時間外勤務時間では最長勤務時間に当たる教員が昨年度9人→2人に減少した。

①について

委員より

・英語教育について、大学入試改革(記述式、AO入試)への対応が大切ではないか。

校長より

・英語の試験は高いレベルを求めているので、安心している。

生徒は不安もあるだろうが、力を発揮すれば大丈夫だと考えている。

記述式については、そこまで気にしていない。

思考力を問う問題(暗記だけではだめ)に対しては、課題研究での取り組み(約2年半)が生きてくると考えている。

委員より

・英語の試験については、準備が進んでいないと聞いている。

記述式については、制度が整ってきていると聞いている。

生きる力については、考える力を問うことは大切である。そのために課題研究は大切であると考えます。

・外部試験は大学によって対応が異なるのか。全大学が使うのか。

校長より

・本校生徒がよく受ける大学は、「受験資格」として使用する。そのほかには加点する大学もある。

委員より

・生徒へのきめ細やかな指導が必要。

・公平・公正を追及すると厳しい課題がある。

・AOの枠がこれからは増えていくのか。

- ・大学によってそれぞれ異なる。
- ・AOでの出願資格での評定平均は、高校によって重みが違う。是正はないのか。
- ・大学側としては、なかなか難しい問題である。それを見ずに判断するしかない。
- ・高校入試の段階で、1つランクを落として進学すれば、指定校推薦で関関同立に行けると指導することもあると聞いている。
- ・大学生を入学後追跡してみると、高校がしっかりと指導した学生は、大学でも就活でもいい結果を出す。大学側としてはやはり公立高校と思っている感がある。
- ・X大の事例だが、入るだけでエネルギーを使い切ってしまう学生が多い。モチベーションの待たせ方次第では伸びる生徒もいる。

②について

委員より

- ・SSH：科学する「ココロ」を育てる、指導要領：学びに向かう姿勢、WWL：グローバルな課題を解決するカリキュラムを作るなど、どうしていくのか。

校長より

- ・ベクトル合わせが課題（拠点校、GLHS各校、府教育庁）であり、大阪府の高校生として育ててほしいと考えている。

委員より

- ・SSHとWWLの関連性について、WWLには英才教育のようなイメージを持つ目標がよく分からない。

校長より

- ・学問の知の連携、地域一体となって科学を教える中で繋がりを構築していく。WWLでの課題研究と本校での課題研究を両立させないといけないと考えている。

③について

委員より

- ・時間は長いですが、自分のペースで仕事ができをおり、クラブ活動をして時間外勤務時間が長い教員は、ストレスはそこまで高くない。時短だけでは、教育効果は衰える可能性がある。Work engagement を高めることが大事である。
- ・外部人材はどのようになっているのか。

校長より

- ・現在、クラブの外部指導員をお願いしている。

委員より

- ・その方々の待遇はどのようになっているのか。

校長より

- ・わずかな額でたいしたものではない。試合の引率のできるものもある。

委員より

- ・学校の方針にそぐわないこともある。外部と学校内のルールなどの理解が必要であろう。

(2) 教科書選定について

教頭より

- ・第1回で示したスケジュール通りで動いている。

(3) 100周年について

担当首席より

- ・記念授業として
豊陵ホールとして現食堂を改築して、アクティブラーニングスペースとして使用できるように、進めている。
- ・教室のICT化として
全HR教室にプロジェクターを設置し、授業で活用できるように進めている。
それに向けての校内研修会(教員向け)を計画している。
- ・学習コンサルタントスペース
各教科の準備室に質問や生徒を指導できるスペースを確保できるように準備を進めたいと考えている。(前2つの実現を優先にしているので、現段階では計画のみ)

委員より

- ・大学でも自分たちで学習できるスペースを作っている
- ・ホールは、何人は入れる計画なのか。

担当首席より

- ・360人が入れるように、学年集会や講演会名地ができるように考えている。